

2012年2月2日

## 2011年度学生研究発表大会の総括

学生研究発表大会教員世話役

経済学部教授 望月和彦

2005年度から再開された学生研究発表大会は、年々参加者が増加し、2011年度は経済学部から5、社会学部から2、経営学部から1の計8つのゼミから、エントリーの時点で43の参加がありました。

その結果、会場も4つの教室で行われることになり、コメンテーターとして16人の先生方をお願いするという、かなり大規模なイベントとして成長してきました。学生懸賞論文や学生研究発表大会への参加がゼミの活動の一環として普及してきたように思えます。

発表テーマ・内容もプレゼンテーションに重点を置いたものから、本格的フィールドワークを行ったもの、文献をしっかりと読み込んだ報告など多彩なものとなりました。参加した学生諸君は他の報告を見ることで互いに切磋琢磨する機会となったと思います。

大学の勉強というのは、単に講義を聴く、本を読むというだけではなく、自分で問題をたてて、それに対して自分だけの解答を考えることが求められます。いうならば知的創造活動です。これが高校までの勉強とは本質的に異なるところです。

学生研究発表大会は、このような知的創造活動に加えてそれをみんなの前で発表するというプレゼンテーションの要素を加えた総合的な知的イベントです。学生諸君にとって研究発表を行うことは容易なことではありません。また学生を指導する教員にとっても同様にかなり骨の折れる仕事であり、学生に対する指導力が問われるイベントでもあります。

特にフィールドワークのような研究活動については、学生本人の努力もさることながらそれを指導する教員の負担も大きく、ゼミの指導教員のご尽力

に頭の下がる思いです。

研究発表大会に参加した学生諸君にたいしては、この経験を活かし、これからの勉学にさらに精進を重ねていくことを願っています。

このような大規模なイベントを運営するに当たって、参加ゼミの指導教員ならびにコメンテーターの先生方、そして司会進行を担当していただいた学生諸君の協力をたいして心から感謝申し上げます。